

令和4年度
興南中学校
入学試験問題

推 薦

国 語

令和3年12月4日（土）実施 45分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。

【一】次の各問に答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{かいしよ ていねい}に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

問一 次の1～6の二重傍線部について、1～3のカタカナを漢字に直し、4～6の漢字の読みをひらがなで答えよ。

- 1 父は、いつもテキカクなアドバイスをくれる。 2 最後の大会で、ユウシユウの美をかざることができた。
- 3 料理を作るのが好きな母は、テギワよく朝食を作る。 4 彼女の素直さは見習うべきだ。
- 5 彼は気位の高い人だ。 6 私の友人は、体裁ばかり気にする。

問二 次の傍線部の漢字で一つだけ、異なる意味で用いられているものがある。次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 友人に自分の気持ちを告白する。 イ いいかげん白状しなさい。 ウ 彼は白衣が似合う。
- エ 政府に選挙運動のあり方について建白する。 オ こっそりおやつを食べたことを自白する。

問三 次の1・2と同じ意味の語句を、次のア～クからそれぞれ選び、記号で答えよ。

- 1 犬に論語 2 さるも木から落ちる
- ア かつぱの川流れ イ あぶはち取らず ウ 月とすっぽん エ 論より証拠
- オ 石の上にも三年 カ ねこに小判 キ えびでたいをつる ク お茶をにごす

問四 「絵画」と同じ構成の熟語を次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 読書 イ 往復 ウ 永久 エ 最高 オ 無限

問五 次の1～3の文の主語と述語をそのままの形で答えよ。ただし文中にないものは解答らんに「なし」と書き、句読点は書かなくてよい。

- 1 くだものの 中で りんごが 好きだ。
- 2 田中さんこそ きびしさと やさしさを 持ち合わせた 人物だ。
- 3 美しい声で 鳴いているよ あの木の上で うぐいすが。

問六 次の1・2の()に入る接続語として正しいものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

1 わたしは、母のふるさとであるやんばるが大好きだ。()、日本でもめずらしい動植物が見られるからだ。

2 今日は朝から台風で雨風がはげしかった。()家で一日を過ごした。

ア ところが イ だから ウ つまり エ そして オ なぜなら

問七 次の文章は「食品ロスと食料支援」について児童たちが話あっている場面である。これを読んで後の問いに答えよ。

まさるくん：「食品ロス」とは、まだ食べられるのにすてられてしまう食品のことです。日本では、年間約二五〇〇万トンの食品廃棄物等

が出されていて、このうち、まだ食べられるのにすてられる食品、いわゆる「食品ロス」は六〇〇万トンになるそうです。

なおこさん：私も、それを聞いた時はびっくりしました。世界では、食料が不足して、飢えに苦しむ人々に向けて、各国から食料援助が送られているのですが、その量の総量が年間約四二〇万トンなので、その一・四倍に相当します。

ひとしくん：どのくらいの量か想像できないでしょうが、「食品ロス」を日本の国民一人当たりにはめてみると、お茶碗約一杯分の食べものが毎日捨てられていることになるので、もったいないと思います。

けいこさん：日本は、農作物の多くを輸入にたよっているのよね？ 輸入しているのに、捨てているなんて矛盾していると思います。

まさるくん：①自分たちが必要な食料を自分たちで作って満たしていた時代にはなかった問題です。

けいこさん：昔は、食料を作る（A）者と、食べる（B）者の役割を自分たちで担っていたということですね。

ひとしくん…さつき、なおさんが食料援助の話をしていたのですが、どんな国が援助をしているのですか。

なおさん…日本はもちろんですが、アメリカやイギリス、ドイツなど多くの国が参加しています。

ひとしくん…どういう国に対して支援が行われているのですか。

なおさん…エチオピアなどのアフリカ諸国や、パキスタンなどの南アジアが多いようです。近年の例をあげると、イギリスは支援の約七割をエチオピアに対して行っています。ドイツは約六割をパキスタンに、アメリカはエチオピアと南アジア諸国とその他の国への支援が同じくらいになっています。

まさるくん…日本はどうなっているのですか。

なおさん…日本もエチオピアを支援していますが、ほかの国と違うのは、南アジアへの支援の割合が大きいということです。

けいこさん…今年は、東京オリンピックの時にスタッフ用のおにぎりやお弁当がたくさん捨てられていたことが問題にもなっていましたね。

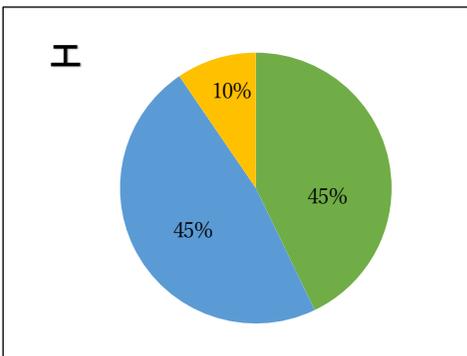
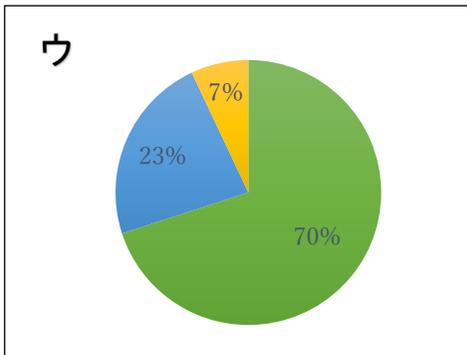
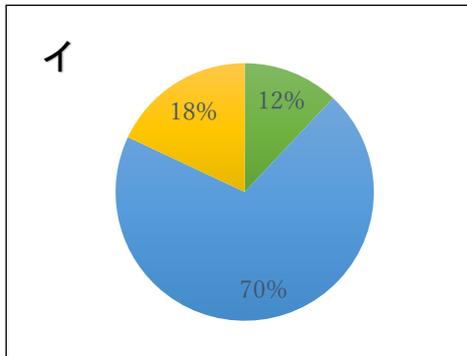
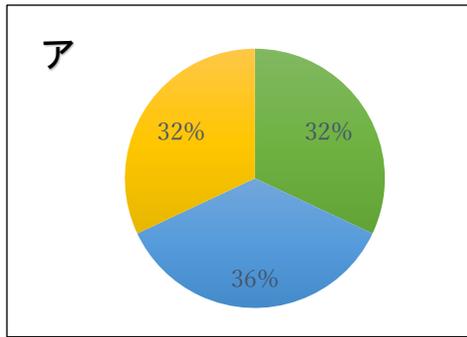
まさるくん…一人ひとりが、毎日の生活を少し変えていくことで、食品ロスを減らすことができるので、みんなで何ができるかを考えて行動していかなくてはいけないと思います。

1 傍線部①「自分たちが必要な食料を自分たちで作って満たす」の意味を持つ四字熟語を漢字で答えよ。

2 (A)と(B)に入る語句をそれぞれ漢字二字で答えよ。

3 傍線部②「どういう国に対して支援が行われているのですか」について、日本の食料支援を表している円グラフを次のア～エから選び、記号で答えよ。

(■ エチオピア ・ ■ 南アジア ・ ■ その他 を表している)



【二】次の文章を読んで、後の問に答えよ。また、問題作成の都合上①～⑨の形式段落の番号を付している。答えは解答题紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

①小学校一年生の教科書から、今使っている教科書までを思い出してみてください。学年が上がるにつれ、教科書にのっている絵の数が減り、その分、字が増えていくでしょう。出てくる問題はむずかしくなっています。①今なら小学校の算数の問題は解けるはずです。

②学年が上がると、もっと複雑でむずかしいことを勉強する必要があります。このような学年を単位とした学校生活を通じて、生徒たちはどんな隠れたカリキュラムを学んでいるのでしょうか。^{かく*}

③この問題を考えるために、隠れたカリキュラムを大きく二つに分けてみましょう。一つのタイプは、学校生活をスムーズに行うために入りこんでくる隠れたカリキュラムです。これは、授業などをきちんと行うために必要とされているいろいろなルールのことです。時間を守ることも、言葉や文字で気持ちや考えを他者に伝えるルールも、一人で勉強するのではなく、集団で勉強するときに必要となる約束事です。

④もう一つのタイプは、もともと自然に、知らず知らずのうちに学校生活に入りこんでいる隠れたカリキュラムです。男女の区別や、年齢による区別といったことは、それが特別に問題とされないかぎり、「あたりまえ」のこととして学校の中でも使われる区別であり、約束事です。学校以外のところでも、なにげなく使われる区別がそのままでも使われるのです。^③

⑤日本人や日本という国についての意識も同じです。日本という国がすでにまとまりをもっていることや、私たちが日本人であるという意識があたりまえになっている現在では、日本という国のまとまりを前提に教育が行われるのも不思議ではありません。あたりまえと思われているからこそ、自然と学校の中にも入ってくる考え方なのです。

⑥ここで重要なのは、第二のタイプ、つまり、知らず知らずのうちに学校に入りこんでくる隠れたカリキュラムです。というのも、この第二のタイプの隠れたカリキュラムによって、あたりまえだと思っていることが、あたりまえのまま疑われなくなることがあるからです。

⑦男女の区別にしても、年齢による区別にしても、慣れてしまえばあたりまえに思える区別です。では、男子と女子の区別にしても、ほかのやり方はないのでしょうか。年齢ごとの集団づくりにしても、違う学年をこちゃませにしないのでしょうか。そう疑ってみると、どうしてもそうしなければならないほどのAがあるとは限りません。出欠をとるときに男女をませこせで名前を呼んでも困らないはずです。授業だって、塾や大学などでは、年齢にこだわらずにいっしょに勉強する集団がつけられることがあります。年齢よりどれだけの学力があるかを基準にクラスをつくってもよいのです。

⑧日本という国や日本人という意識にしても、外国人の子どもが日本の学校にもっと増えていけば、どうなるでしょう。いままでのように、日本という国のまとまりを前提に、日本語や日本の歴史、地理を中心に教える教育が望ましいかどうか疑問が出てくることだってあるでしょう。

⑨このように、隠れたカリキュラムを通じて、私たちは自分たちのまわりの世界をどのように区別するのかわからず知らずのうちに身につけていきます。そして、そういう区別のしかたが私たちの行動や考え方にも影響を及ぼすことになります。隠れたカリキュラムには、男女という区別を取りはらつてみたり、年齢という区別を取りはらつてみたりした時に、ほかのやり方の可能性があることに気づかないようにさせたり、どの国の人であるかという区別を取りはらつてみた時に、これまでとはちがう新しい関係を築けるのかということを想像できなくさせる危険性があるのです。

【語注】

* カリキュラム 生徒・児童が学習するコースとして立てられた、教育内容の系列。

問一 傍線部①「今なら小学校の算数の問題は解けるはずです」とあるが、「今なら」が修飾する言葉を次のア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 小学校の イ 算数の ウ 問題は エ 解ける オ はずです

【 荻谷剛彦『学校って何だろうー教育の社会学入門』（ちくま文庫 より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変）】

問二 傍線部②「学校生活をスムーズに行うために入りこんでくる隠れたカリキュラム」とはどのようなものか。十八字で特定し、抜き出して答えよ。

問三 傍線部③「れる」とあるが、同じ意味でつかわれているものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 校長先生が話される。 イ 昔のことが思い出される。 ウ 友達に笑われる。 エ 登られるところまで登ろう。

問四 Aに入る言葉として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア 連続性 れんぞくせい イ 単発性 たんぱつせい ウ 必然性 ひつぜんせい エ 偶然性 ぐうぜんせい オ 類似性 るいせい

問五 傍線部④「そういう区別～ことになります」について次の各問いに答えよ。

1 「そういう区別」が指す内容を、「～区別」につながるかたちで文章中から十八字以内で特定し、抜き出して答えよ。

2 傍線部④のように筆者が考える理由を述べた次の文章を完成させよ。ただし い、ろに入る語句は、本文中より指定された字数で特定し、抜き出して答えよ。

隠れたカリキュラムよって、い十字があることやろ九字ということに目を向けなくなってしまうから。

問六 本文の内容の説明として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 学校生活で学ぶ隠れたカリキュラムによって、私たちは時間を守ることや他者とのコミュニケーションの取り方を自然と習得し、年齢に見合った学力を身につけることができる。

イ 学校生活で学ぶ隠れたカリキュラムによって、私たちは集団生活をスムーズに送るためのルールだけでなく自分たちのまわりの世界をどう区別するかを無意識のうちに身につけている。

【三】次の文章を読んで後の間に答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{ていねい}に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

松岡清澄^{まつおかきよすみ}は高校に入学したばかりの男子高校生^{*1}。姉の水青^{みお}と二人姉弟。自己紹介の時、「縫いものが好き」と話し、教室の空気が微妙^{びみょう}に変化したような気がしていた。母親は清澄の「縫いもの」が好きなことや友人が少ないことを心配していた。そんな中、後ろの席の「宮多^{みやた}」と連絡先の交換をし、昼食時間を一緒に過ごすようになる。清澄は学校で宮多たちと昼食をとっているときも、「ドレスを作るための刺しゅう」のことが気になって仕方ない。ついには「見たい本があるから」と席を離れ、「刺しゅうの本」を見ながら、刺しゅうの仕草をしていると、様子を見ていたクラス²の一人が清澄の手の動きを真似^{まね}をして笑っていたことに対し、「なあ、なんか用？」と声を出したことで教室がざわめいた。その帰り道、クラスメイトの高杉^{たかすぎ}くるみに声をかけられ、一緒に帰っている場面である。

隣^{となり}を見たら、くるみはいなかった。数メートル後方^{ごほう}でしゃがんでいる。灰色の石をつまみあげて、しげしげと観察^{くわんさつ}しはじめた。

「なにしてんの?」

「うん、石」

うん、石。ぜんぜん答えになつてない。入学式の日「石が好き」だと言っていたことはもちろんちゃんと覚えていたが、まさか道端^{みちばた}の石を拾っているとは思わなかった。

「いつも石拾ってんの? 帰る時に」

「いつもではないよ。だいたい土日にさがしに行く。河原^{かわら}とか、山に」

「土日にっわびわびか」

「やすりで磨く^{みが}の。つるつるのぴかぴかになるまで」

放課後の時間はすべて石の研磨^{*3けんま}にあてているという。ほんまにきれいなんねんで、^②頬^{ほお}がかすかに上気^{じょうき}している。

ポケットから取り出して見せられた石は三角のおにぎりのような形状だった。たしかによく磨かれている。触ってもええよ、と言われて、手を伸ばした。指先で、しばらくすべすべした感触を楽しむ。

「さっき拾った石も磨くのか？」

くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた。

「磨かれない石もあるから。つるつるのぴかぴかになりたくないってこの石が言うてる」

石には石の意思がある。駄洒落^{だしゃれ}のようなことを真顔で言うが、意味がわからない。

「石の意思、わかんのか？」

「わかりたい。いつも思ってる。それに、ぴかぴかしてないときれいやないってわけでもないやんか。ごつごつの石のきれいさってあるから。

そこは尊重してやらんとな」

じゃあね。その挨拶^{あいさつ}があまりに唐突^{*4とつたつ}でそっけなかったので、怒ったのかと一瞬^{いっしゆん}焦^{あせ}った。

「キョくん、まっすぐやる。私、こつちやから」

川沿いの道を一步^ふ踏み出してから振り返った。^④すすん前進^{ぜんしん}していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのは楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないことに触れるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、そのほうが楽しい。

ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。

「昼、なんか怒ってた？もしや俺あかんこと言うた？」

違う。声に出していいそうになる。宮多はなにも悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまったただけだ。自分が楽しいふりをして
いることに。

いつもひとりだった。

教科書を忘れたときに気軽に借りる相手がないのは、心もとない。ひとりではぼつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさをこまかす
ために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、もつともつとさびしい。

好きなものを追い求めることは、楽しいと同時にとても苦しい。その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか。

⑤ 文字を入力する指がひどく震える。

「ちやうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺しゅうの本」

ポケットからハンカチを取り出した。祖母に褒められた猫の刺しゅうを撮影して送った。すぐに既読の通知がつく。^{*5}

「こうやって刺しゅうするのが趣味で、ゲームとかほんまはぜんぜん興味^Aがなくて、自分の席に戻りたかった。ごめん」

「え、めつちやうまいやん。松岡くんすごいな」

そのメッセージを、⑥ 何度もくり返し読んだ。

わかってもらえるわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだろう。

今まで出会ってきた人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。

いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がばしゃんと跳ねた。^{*6}波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が

風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなって、じんわりと涙が滲む。

きらめくもの。揺らめくもの。目に見えていても、かたちのないものには触れられない。すくいとって保管することはできない。太陽が翳ればたちまち消え失せる。だからこそ美しいのだとわかっていても、願う。布の上で、あれを再現できたらいい。そうすれば指で触れてたしかめられる。身にまとうことだって。そういうドレスをつくりたい。着てほしい。すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ。きらめくもの。揺らめくもの。どうせ触れられないのだから、なんてあきらめる必要などない。無理なんかじゃないから、ぜったい。

どんな布を、どんなかたちに裁断して、どんな装飾をほどこせばいいのか。それを考えはじめたら、いてもたってもいられなくなる。

それから、明日。明日、学校に行ったら、宮多に例のじゃんこなとかというゲームのことを、教えてもらおう。好きじゃないものを好きならりする必要はない。でも僕はまだ宮多たちのことをよく知らない。知ろうともしていなかった。靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる。

【語注】

【寺地はるな 『水を縫う』（集英社）より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

*1 姉の水青 結婚式にむけてドレス選びをしているが、すべてが嫌でたまらない。その話をきいた清澄が「自分がドレスを作る」と家族に話す。

*2 高杉くるみ 清澄と小学校・中学校と一緒で、清澄が「なんだかっこいい」と思っている生徒。背が低く、手の甲は制服の袖で半分かくれている。教室がざわめいたあの日、くるみは清澄に「気にせんほうがええよ」と声をかけた。

*3 研磨 とぎみがくこと。

*4 唐突 前触れなく突然であるさま。

*5 既読 すでに読み終えていること。

*6 波紋 水面にものを投げた時などに、輪のように広がる波の模様。

問一 傍線部①「しげしげ」とあるが、ここでの意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア じつくりと イ 大まかに ウ うれしそうに エ うたがいの目で

問二 傍線部②「頬がかすかに上気している」からうかがえる心情として**適当ではない**ものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 石がきれいになることがうれしい気持ち。 イ ぴかぴかになった石に満足する気持ち。

ウ 石をつるつるに磨くことに緊張している気持ち。 エ すべすべする石に興奮する気持ち。

問三 傍線部③「これはたぶん磨かへん」とあるが、その理由を説明した次の文の **い**、**ろ** に合う語句を本文中からそれぞれ漢字二字で特定し、抜き出して答えよ。

石が好きなくなる前は、石には **い** 二字 があり、それを **ろ** 二字 したいと考えているから。

問四 傍線部④「ずんずん前進していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた」とあるが、くるみに対して清澄はどのように感じているか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 清澄は、くるみが興味のある「石」のことを駄洒落を交えて伝えたことで、くるみはひょうきんな性格だと気づき、彼女の新たな一面を見つけ、うれしくなっている。

イ 清澄は、くるみが興味のあることについて一方的に伝えてきた意味がわからず、以前は「かつこいい」とあこがれを感じていたが、今は軽べつしている。

ウ 清澄は、くるみの「石」に対する情熱に感動したことで、これまで子供っぽいと思っていたくるみが大人びて見え、自分自身を情けなく思っている。

エ 清澄は、くるみが興味のあることを堂々と語る姿に魅力を感じ、小さな体とは対照的にくるみがこれまでよりも大きな存在として感じられている。

問五 傍線部⑤「文字を入力する指がひどく震える」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 自分の好きな「縫いもの」のことを伝えようと思うが、どう伝えていいのか分からず困っているから。

イ 自分の好きな「縫いもの」のことを伝えたいと思うが、相手に絶対きられると思いきわっているから。

ウ 自分が好きな「縫いもの」のことを伝えたいと思うが、相手の反応が気になって緊張しているから。

エ 自分が好きな「縫いもの」のことを伝えようと思うが、初めて友人にメールができるので喜んでるから。

問六 傍線部A「興味がなく」と同じ意味になるよう、次の□に否定の意味を添える漢字を入れるうえで、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

□関心

ア 無 イ 否 ウ 不 エ 未

問七 傍線部⑥「何度もくり返し読んだ」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 宮多からのメッセージが、今まで出会った人間と同じようなからかいの反応だったので、清澄の予想が的中し失望したから。

イ 宮多からのメッセージは、今まで出会った人間と同じように受け入れてくれる内容だったので、清澄の予想が当たり鼻白んだから。

ウ 宮多からのメッセージが、今まで出会った人間の反応とは違い、清澄を受け入れてもらえたことが信じられないほど嬉しかったから。

エ 宮多からのメッセージは、今まで出会った人間と同じく自分を拒否する内容とは違い、清澄が受け入れられたか分からなかったから。

問八 傍線部B「着てほしい。すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ」とあるが、ここに用いられている表現技法を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 比喩 イ 倒置法 ウ 対句 エ 呼びかけ

問九 この文章で清澄はどのような人物として描かれているか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 縫いものをするのが好きなことを隠してきたが、高校生になりそんな自分を変えたいと思い、友人のメールのやりとりから友人の趣味であるゲームも趣味にしようとする柔軟な性格の人物。

イ 縫いものが好きな自分を周囲に受け入れてもらえないとあきらめ、他者の好き嫌いに同調することなくこれからも自分が好きなものだけにこだわりつけようとする人物。

ウ 縫いものをするのが好きと伝えられずにいたが、友人たちの言葉に考えが変わり、今まで知らなかったことでも楽しいことは楽しいと周囲が受け入れるまで伝えようとする強い信念をもつ人物。

エ 自分の好きなことをうまく周囲に伝えられずにいたが、友人たちの言葉や態度によって無理に相手に合わせなくても互いにわかりあえることに気づき、行動に移そうとする前向きな人物。

問十 次に挙げるのはこの文章を最後まで読み、四人の生徒が感想を述べている場面である。感想の理由が適当なものには○を、そうでないものには×と答えよ。

Aさん：ぼくは、清澄が刺しゅうの仕草をしてクラスメイトに笑われた時、かわいそうに思ったよ。男子が「刺しゅう」をすることはおかしくないよね。きつと宮多は、清澄のことをかわいそうに思い連絡をしたのだと思うよ。

Bさん：クラスメイトは「刺しゅう」をする清澄を笑い、清澄もやっぱり姉のドレスをつくることは不安に思い、いてもたってもいられなくなっているね。でも私は、清澄は最終的にはドレスを作ることができると思うよ。

Cさん：くるみが「石」の話をしたことで清澄は今までの考え方が少し変化したよね。くるみは自分の好きなことを伝えて、間接的に清澄にも「刺しゅう」が好きなことに自信をもってほしかったのだと思うよ。

Dさん：清澄が刺しゅうをすることにに対し、周囲が理解していないことはやっぱり清澄は心もどなく感じているよね。それに対するその気持ち「靴紐をきつく締め直し」から伝わってくるよね。